

国指定史跡「津屋崎古墳群」について

津屋崎古墳群

玄界灘に面した福津市北部の丘陵や台地上に、5世紀から7世紀にかけて築かれた古墳が、南北8km、東西2kmの範囲に集中しています。前方後円墳16基、円墳43基、方墳1基の総数60基が現存し、津屋崎古墳群と総称しています。約200年にわたる地方豪族の首長墓群であり、平成17年3月2日に国指定の史跡となりました。



福津市北部

古墳群の変遷

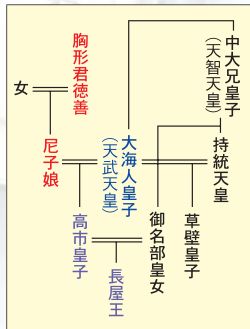
津屋崎古墳群では保存を前提としているため埋葬施設を調査しているものが少なく、表面採集遺物によって年代推定しているものもあります。古墳築造時期の決定にはさらに詳細な調査を要しますが、前方後円墳に注目すると、5世紀に勝浦・奴山において築造が始まり、6世紀に須多田・在自に移ります。続いて宮司・手光に7世紀の古墳が築造されます。このように古墳群は大筋として北から南へ変遷しています。

胸形君一族

かつて津屋崎古墳群は広い入り海に面していました（地図参照）。古墳群を築いた人々は、天然の港を持ち、伝統的に培った航海技術で船舶を操り、対外交渉に関わったと考えられます。

津屋崎古墳群の被葬者について、文字資料などの物証は出土していません。しかし『古事記』や『日本書紀』に、三女神を祭る「筑紫の胸形君」という豪族が登場します。地理的状況や古墳群の規模を考え合わせると、沖ノ島祭祀に関わったと伝わる胸形君一族の墳墓群である可能性が考えられます。

また、『日本書紀』に「胸形君徳善が女尼子娘を納して、高市皇子命を生ませり」とあり、「胸形君徳善」を宮地獄古墳の被葬者に、近くで見つかった火葬墓の被葬者を尼子娘に当てるとの説があります。



国指定史跡「津屋崎古墳群」へのアクセス



最寄りの駅

■ JR 鹿児島本線福岡駅

お問合せ先

〒811-3293 福岡県福津市中央1-1-1
 福津市教育委員会 文化財課 史跡整備係
 TEL (0940) 62-5093 FAX (0940) 43-9004
 E-mail bunka@city.fukutsu.lg.jp



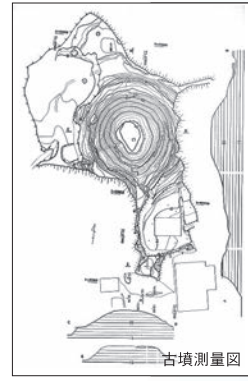
新原・奴山古墳群

福岡県福津市



1 かつらたかはらこふんぐん 勝浦高原古墳群

前方後円墳1基と円墳12基からなり、11基が現存しています。11号墳は全長49mの前方後円墳です。(6世紀後半)



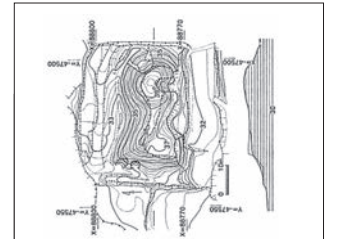
5 ゆくえおつつかこふん 生家大塚古墳

前方部の大半を失っていますが全長73mの前方後円墳で、周りに溝と堤がめぐらされています。埴輪や須恵器が出土しています。(5世紀後半)



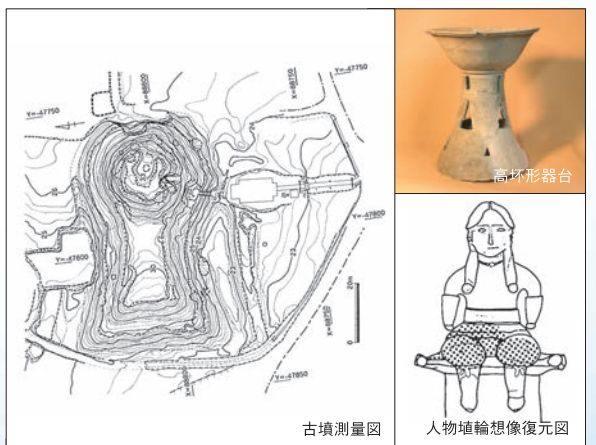
6 おおいしおかのたにこふんぐん 大石岡ノ谷古墳群

1、2号墳はそれぞれ全長55m、全長43mの前方後円墳です。(6世紀後半)



7 すだたかみのくちこふん 須多田上ノ口古墳

周りに溝と堤がめぐる全長43mの前方後円墳です。(5世紀後半)



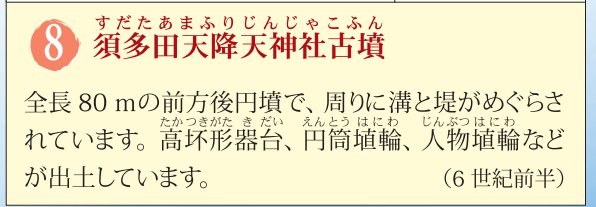
8 すだたあまふりじんじやくふん 須多田天降天神社古墳

全長80mの前方後円墳で、周りに溝と堤がめぐらされています。高坏形器台、円筒埴輪、人物埴輪などが出土しています。(6世紀前半)



9 すだたしもくちこふん 須多田下ノ口古墳

全長82.8mの前方後円墳で、周りに2重の溝がめぐらされています。須恵器の高杯や甕が出土しています。(6世紀後半)



10 すだたみそづかこふん 須多田ミソ塚古墳

全長67mの前方後円墳です。須恵器の脚付壺や脚付甕などが出土しています。(6世紀中頃～後半)



11 すだたにたづかこふん 須多田ニタ塚古墳

直径33.5mを測る大型円墳で、周りに2重の溝がめぐらされています。赤い顔料が塗られた横穴式石室は、石の積み方が勝浦峯ノ畑古墳の石室に似ています。(5世紀中頃)



12 あらじつぎづかこふん 在自剣塚古墳

津屋崎古墳群中最大の規模を誇る前方後円墳で全長は101.7mを測ります。須恵器の大甕や高坏形器台が出土しています。(6世紀後半)



14 みやじいでのかみこふん 宮司井手ノ上古墳(未指定)

直径26mの円墳です。墳頂部から竪穴式石室、箱式石棺、石蓋土壇墓の3つの埋葬施設が見つっています。箱式石棺からは人骨とともに短甲、刀剣類、鉄鏃、鉄製農具類などの豊富な副葬品が出土しています。(5世紀前半)なお、200m東にある手光湯ノ浦古墳群(地図中15)でも類似の埋葬施設が見つっています。(5世紀前半～6世紀前半)

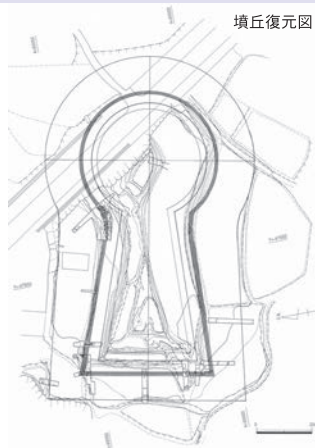
凡 例

- 前方後円墳
- 円墳
- 方墳
- 標高50m未満
- 標高50m以上
- 旧入り海(縄文時代の推定海岸線より)
- 海、河川、池



2 勝浦峯ノ畑古墳(かつうらみねのはたこふん)

5世紀中頃に造られた全長100mの前方後円墳です。後円部に古式の横穴式石室があり、石室内は壁面から天井まで赤い顔料が塗られていました。中軸線上に2本の石柱が立てられる石室は国内には例が無い構造で、朝鮮半島に類例があります。



石室内からは画文帯神獣鏡、内行花文鏡など8面の鏡、金銅製冠帽、鹿角装大刀40振以上、短甲、15,000点以上のガラス玉など多量の遺物が出土しています。これらの副葬品は沖ノ島7、8号遺跡にも対比できる内容であり、沖ノ島祭祀とのかかわりをうかがわせます。



3 勝浦井ノ浦古墳(かつうらいのうらこふん)



5世紀中頃に造られた全長70mの前方後円墳です。前方部に初期竪穴系横口式石室があり、その内部前面に赤い顔料が塗られていました。朝鮮半島加耶地域に起源を持つ特色ある石室です。

出土遺物が豊富で、石室内から鉄矛、石突、鉄鏃、短甲、鉄地金銅張掛甲小札、三環鈴、鉄地金銅張杏葉、木心鉄板張壺鏡、轡、金銅磯金具、鞍金具、六葉形金具、鉄斧といった武器、武具、馬具、工具などが出土しました。



4 新原・奴山古墳群(しんばる・ぬやまこふんぐん)

新原・奴山古墳群は2017(平成29)年7月に「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群として世界文化遺産に登録されました。



5世紀前半から6世紀後半にかけて造られ、津屋崎古墳群の中で最も密集する古墳群です。東西800mの台地上に前方後円墳5基、方墳1基、円墳35基の計41基が現存します。



22号墳は現状では円墳に見えますが、全長80mの前方後円墳で、5世紀前半の築造です。唯一の方墳7号墳も同時期のもので、墳丘上から鉄斧や琥珀原石などが出土したことから、祭壇として使われたとの説もあります。



発掘調査が行われた古墳は1～6号墳などがあり、1号墳は全長50mの前方後円墳で、鉄刀や鉄の矢じり、鍛冶工具などが出土しました。5号墳は直径13mの円墳で、革袋形の須恵器など多くの土器が出土しました。また、直径17mの21号墳の墳丘上には鎌倉時代の板碑群があります。柱状の玄武岩を立て、仏像や梵字を彫刻しています(福岡県指定有形文化財)。



13 宮地嶽古墳(みやじだけこふん)



宮地嶽神社境内の奥ノ院にある直径34mの円墳です。墳丘内部に造られた横穴式石室は全長23m、最大幅2.8m、天井高さ3.1mを測り、国内最大級の規模です。玄室の側壁に龕のような削り込みが左右一対あるほか、玄室奥は天井と両側壁が狭い構造です。7世紀前半から中頃の築造と考えられます。



昭和9年(1934)、昭和26年(1951)に古墳周辺から金銅装頭椎大刀、金銅鞍金具、金銅壺鏡、金銅透彫冠、蓋付銅椀、銅盤、瑠璃板、瑠璃丸玉など豪華な副葬品が発見され、国宝となっています。また、昭和13年(1938)には同古墳近くで8世紀の火葬墓が発見され、銅壺と瑠璃壺が出土し、国宝となっています。



16 手光波切不動古墳(てびかなみきりふどうこふん)



津屋崎古墳群の南端に位置する直径25mの円墳です。墳丘の高さは9mあります。墳丘内部の横穴式石室は全長10.8m、玄室高さ2mを測り、宮地嶽古墳とよく似た構造です。玄室奥に石造の不動尊が祭られています。平成24年(2012)の発掘調査で、金銅製馬具、新羅土器、沖ノ島出土の祭祀土器に類似する須恵器器台などが出土しました。7世紀前半の築造と考えられます。

新羅土器